

四国中央市国際化推進ビジョン

～市民とともに歩む 多文化共生のまち 四国中央市（案）～

四 国 中 央 市

目 次

第1章 ビジョンの策定にあたって

- 1. ビジョン策定の背景と趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2. ビジョンの位置づけと期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第2章 ビジョンについて

- 1. 四国中央市国際化推進ビジョン(目標とする都市像)・・・・・・・・・・ 4
- 2. 目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3. 目標と施策の体系図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

第3章 目標に対する方針

- 1. 方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第4章 推進体制について

- 1. 推進体制図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

第5章 資料編

- 1. アンケート結果について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

第1章 ビジョンの策定にあたって

1. ビジョン策定の背景と趣旨

本市では、2014（平成26）年2月に「四国中央市国際交流ビジョン」を策定し、本市の国際化の方向性や方針を定め国際交流、国際協力を発展、深化させるために市民や関係団体と協働により、総合的・計画的に推進してきました。

しかし、「四国中央市国際交流ビジョン」を策定してから相当な期間が経過する中で、外国人市民の増加・多国籍化、多様性・包摂性のある社会実現の動き、デジタル化の進展、気象災害の激甚化等多文化共生の施策を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、総務省による「地域における多文化共生推進プラン」の改定も行われました。

こうした状況を踏まえ、本市では改訂された「地域における多文化共生推進プラン」も参考とし、「四国中央市国際交流ビジョン」の見直しを図り、これまでの国際交流の取組を継承・発展させながら、地域の特性を生かした多文化共生社会の実現を目指して「四国中央市国際化推進ビジョン」を策定するものです

2. ビジョンの位置づけと期間

このビジョンは、根拠条例を「四国中央市自治基本条例」、上位計画を「四国中央市総合計画」とする個別計画として位置づけ、国のプランや市の関連する計画との整合性も図りながら策定するものとします。計画期間については上位計画である総合計画が終了する2032年度とし、2033年度からは、第4次四国中央市総合計画の中に盛り込むこととします。

2023年度 2024年度

2032年度

第三次四国中央市総合計画基本構想（2023→2032）

四国中央市国際化推進ビジョン（2024→2032）

第2章 ビジョンについて

1. 四国中央市国際化推進ビジョン（目標とする都市像）

市民とともに歩む 多文化共生のまち
四国中央市（案）

2. 目 標

目標1. 多文化共生による安心・安全なまちづくりの推進

コミュニケーション支援・生活支援

目標2. 国際交流・国際協力の拡充

意識啓発と社会参画支援

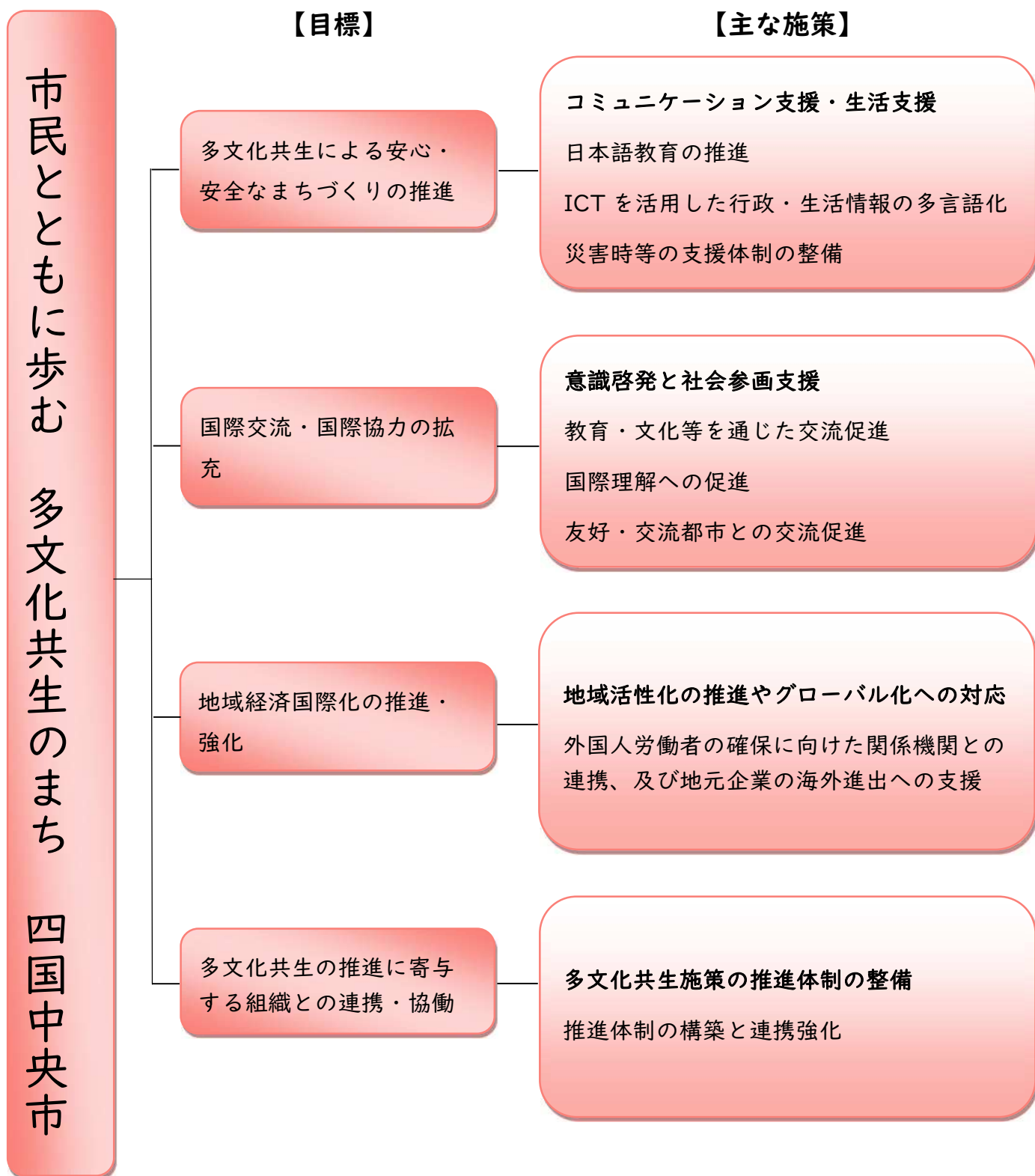
目標3. 地域経済国際化の推進・強化

地域活性化の推進やグローバル化への対応

目標4. 多文化共生の推進に寄与する組織との連携・協働

多文化共生施策の推進体制の整備

3. 目標と施策の体系図



第3章 目標に対する方針

1. 方針

目標1 ～多文化共生による安心・安全なまちづくりの推進～

【方針】多文化共生社会を実現するには本市の地域特性を踏まえ、外国人市民が日常生活及び社会生活を地域住民と共に円滑に営むことができる環境整備が必要となります。そのため、日本語教育の推進などのコミュニケーション支援や生活支援となる災害時の支援体制の整備、多言語化（ICT活用）による情報提供などを行い「誰ひとり取り残さない」社会の実現を目指します。

主な施策

◇日本語教育の推進

当市における外国人市民は今後も増加が見込まれることから、日常生活及び社会生活を地域住民と共に円滑に営むことができるように、関係する行政機関や日本語教育を行う機関、また外国人を雇用する事業主等関係者の連携強化を図るとともに、必要な推進体制を構築することで日本語教育を強力に推進します。

◇ICTを活用した行政・生活情報の多言語化

医療や教育、住居等生活に関する情報について、多言語での表記や、やさしい日本語での情報提供に努めます。

◇災害時等の支援体制の整備

市内在住の外国人市民に対して防災に関する知識を身につけてもらい、災害に対する備えと心構えを身につけてもらうことを目的として、防災研修会等を開催します。

目標2 ～国際交流・国際協力の拡充～

【方針】教育・文化等を通じ国際意識の高揚と諸外国との相互理解の増進を図るため、ホームステイなどによる相互交流の促進や国際理解講座やセミナー等を開催します。また、国際交流イベントなどを開催することで異文化交流の場を提供し外国人市民の地域社会への参画を図ります。

主な施策

◇教育・文化等を通じた交流促進

ホームステイなどの異文化体験を通して相互の交流促進を図ることで、多様な国際交流の創出を行います。

◇国際理解への促進

CIR や ALT による国際理解講座やセミナー等を開催することで、学校教育や生涯学習の場において国際理解への促進を図ります。

◇友好・交流都市との交流促進

協会や民間団体等への活動を行政がサポートしながら進めていきます。

目標3 ～地域経済国際化の推進・強化～

【方針】 少子高齢化や人口減少にともなう労働力不足が懸念されることから外国人労働者の確保に向け関係機関との連携・支援を推進します。また、地元企業の海外進出について関係機関と連携して支援に努めます。

主な施策

◇外国人労働者の確保に向けた関係機関との連携、及び地元企業の海外進出への支援

各種補助金に関する周知活動や補助金活用に関する支援を検討するなど、地元企業のニーズに対応した海外進出に関する支援を行います。

目標4 ～多文化共生の推進に寄与する組織との連携・協働～

【方針】 多文化共生社会を推進していくためには、地域との協働により実現できるものであることから計画的かつ総合的な取組が必要となります。そのため行政による施策の実施や国際化推進実行委員会を中心とした関係機関（協会、団体、企業等）が連携して推進するように努めます。

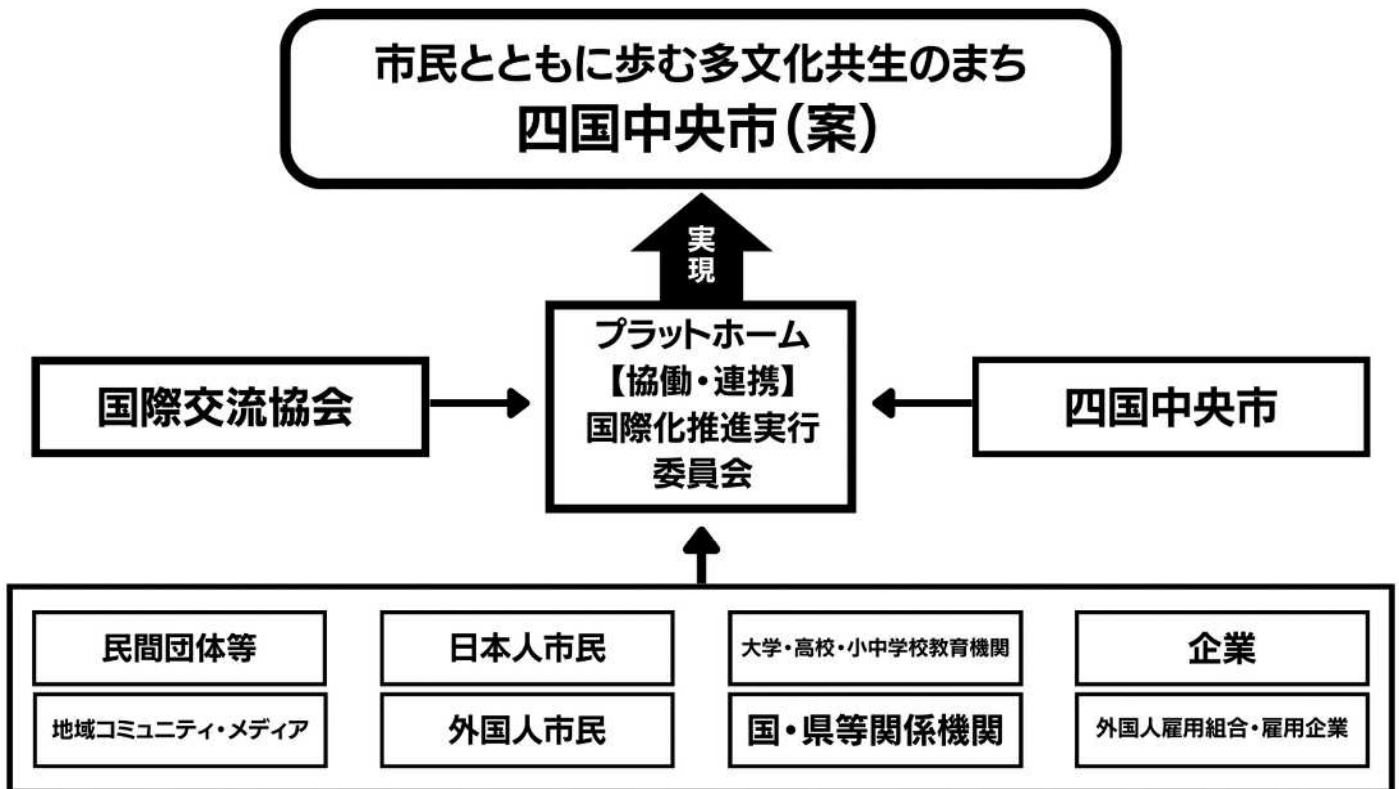
主な施策

◇推進体制の構築と連携強化

多文化共生社会の実現に向け、国際化推進実行委員会を中心とした関係機関との連携を強化し、施策の推進に努めます。

第4章 推進体制について

1. 推進体制図（どのような体制なのか）



第5章 資料編 アンケート結果について

I 調査実施の概要

調査の目的

四国中央市国際化推進ビジョンを策定するにあたり、本市在住の外国人市民・国際交流関係者（法人含む）・市内企業へ各アンケートを実施し、外国人市民の現状や課題、ニーズの把握を行い、国際交流関係者や市内企業に対しては多文化共生についての実情や国際化を推進する上での課題の把握を行った。

各アンケートについての調査項目や調査方法については以下のとおり。

調査結果：本市在住の外国人市民

1. 調査の項目

- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| ① 調査該当者の属性 | ② 防災について | ③ 生活について |
| ④ 医療・救急について | ⑤ 仕事（職場）について | ⑥ 教育・子育てについて |

2. 調査方法

- | | |
|--------|---------------------------------------------------------------------|
| ① 調査地域 | 四国中央市全域 |
| ② 調査対象 | 四国中央市内在住で、満16歳以上の
外国籍市民843人
(基準日 令和4年12月31日) |
| ③ 調査期間 | 令和5年1月24日～3月31日 |
| ④ 調査方法 | ①送付WEBにて回答
②関係団体等を通して依頼、WEB回答
※アンケートは、日本語カナ付き、英語、中国語、ベトナム語で用意 |
| ⑤ 実施主体 | 四国中央市 |

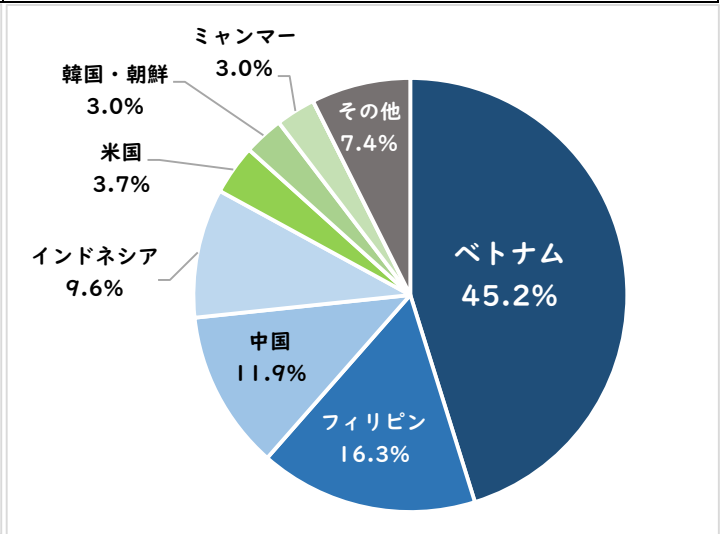
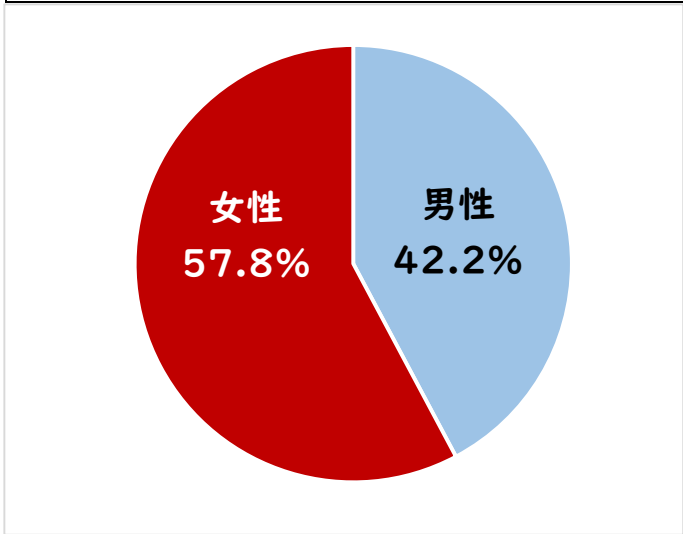
3. 回答状況

- | | |
|----------|-------------------|
| ① 対象者数 | 843件 |
| ② 無効回答数 | 2件（宛先不明、帰国等による返送） |
| ③ 実質回答者数 | 135件 |
| ④ 有効回答数 | 135件 |
| ⑤ 回答率 | 16.0% |

4. 回答比率

- ① 集計は少数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100%にならない場合がある
- ② 回答比率（%）はすべて有効回答数を基数として計算
- ③ 複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超える場合がある

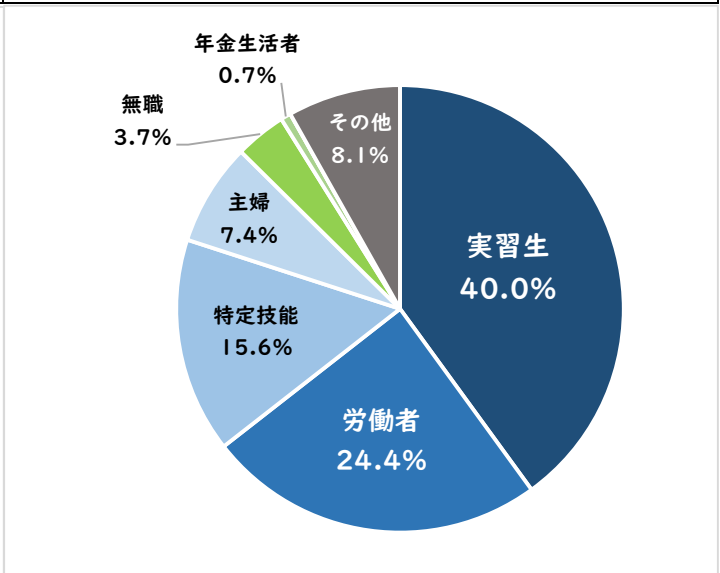
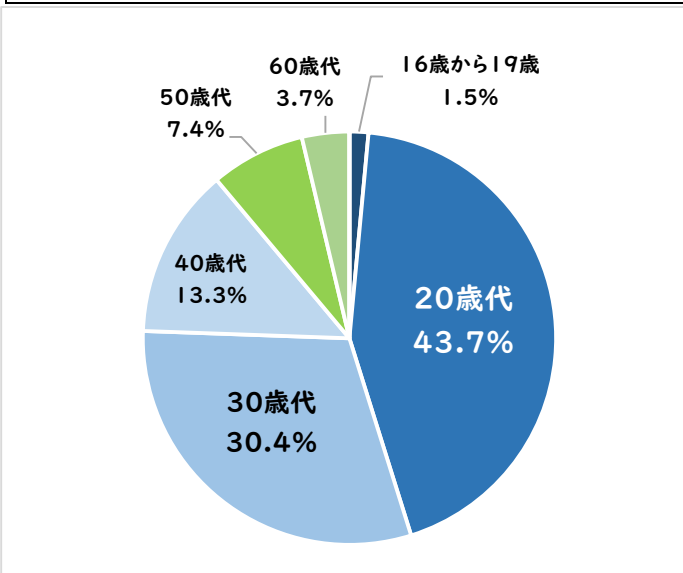
問 1 : 性別	問 2 : 国籍
-----------------	-----------------



◆ 『女性』が約6割、『男性』が約4割。

◆ 『ベトナム』が45.2%と最も高く、次いで『フィリピン』が16.3%と『中国』が11.9%いる。

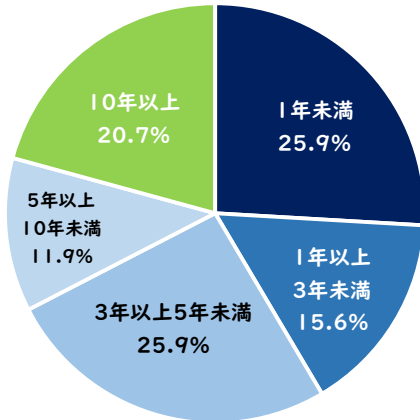
問 3 : 年齢	問 4 : 状態
-----------------	-----------------



◆ 『20歳代』が43.7%と最も高く、『30歳代』が30.4%と続く。

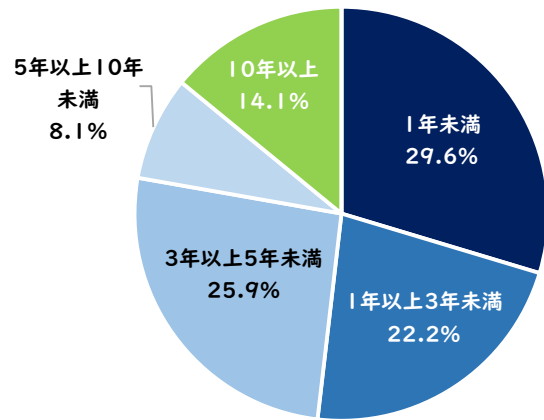
◆ 『実習生』が40.0%と最も多く、約8割が仕事をしている。

問 5 : 日本に今までどのぐらい住んでいますか。



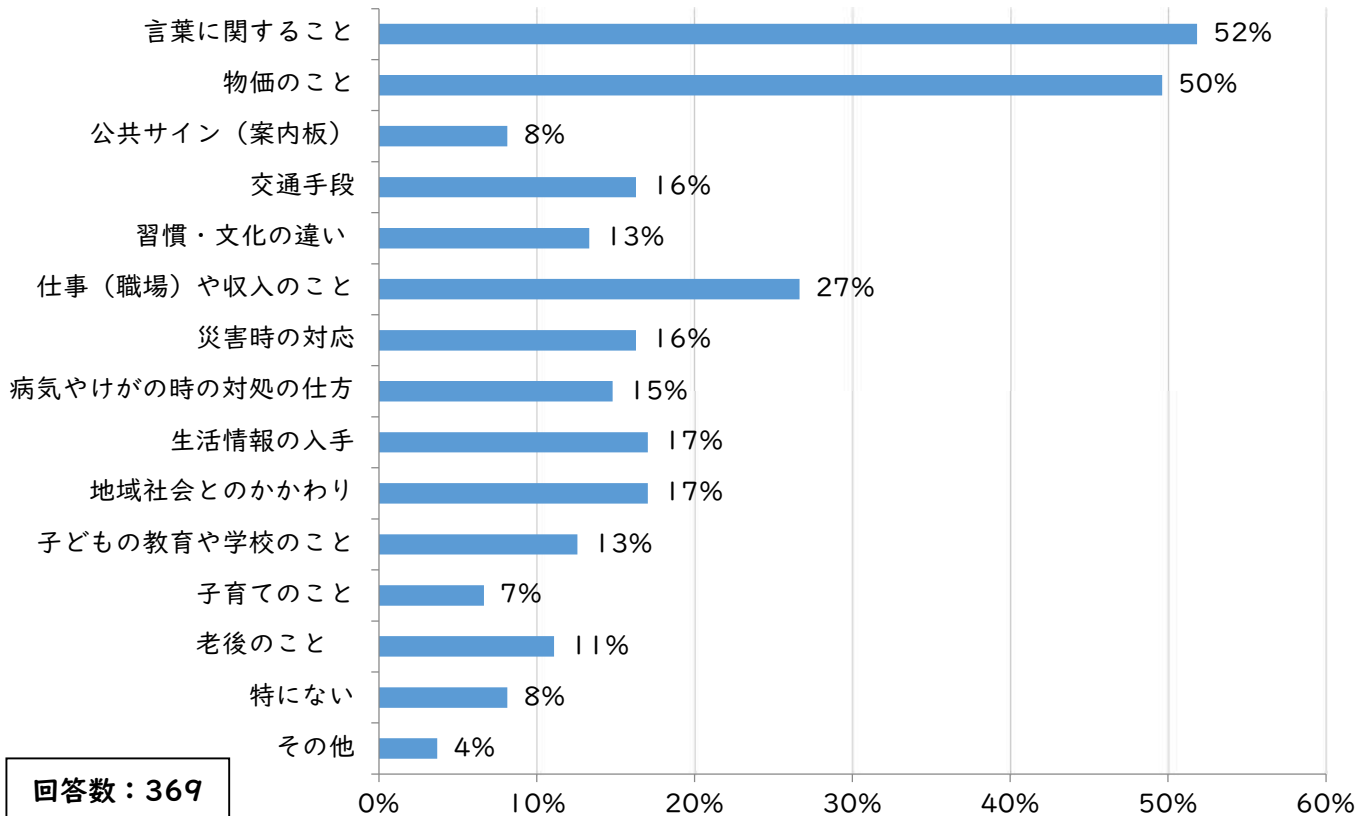
◆ 5年未満の短期滞在者が67.4%となっている。

問 6 : 四国中央市にどのぐらい住んでいますか。



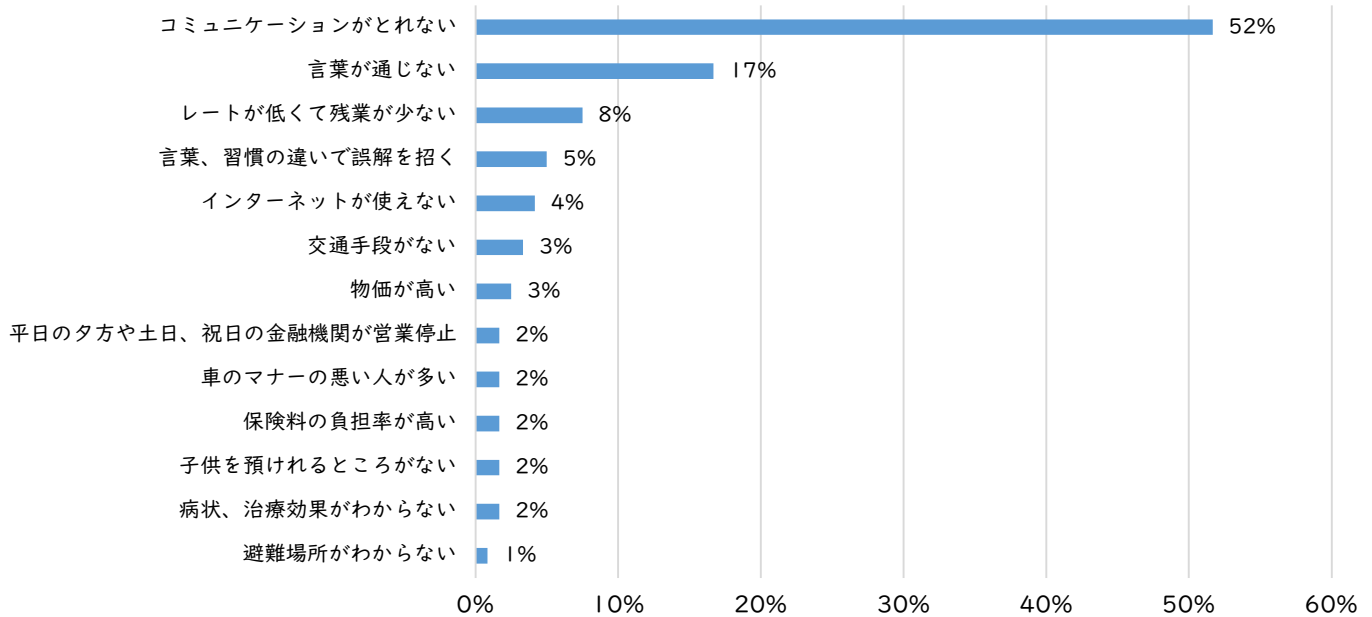
◆ 日本滞在同様、四国中央市でも5年未満という短期滞在者が77.7%となっている

問 7 : あなたが普段の生活で困っていることや不安なことはなんですか。
(いくつでも○可)



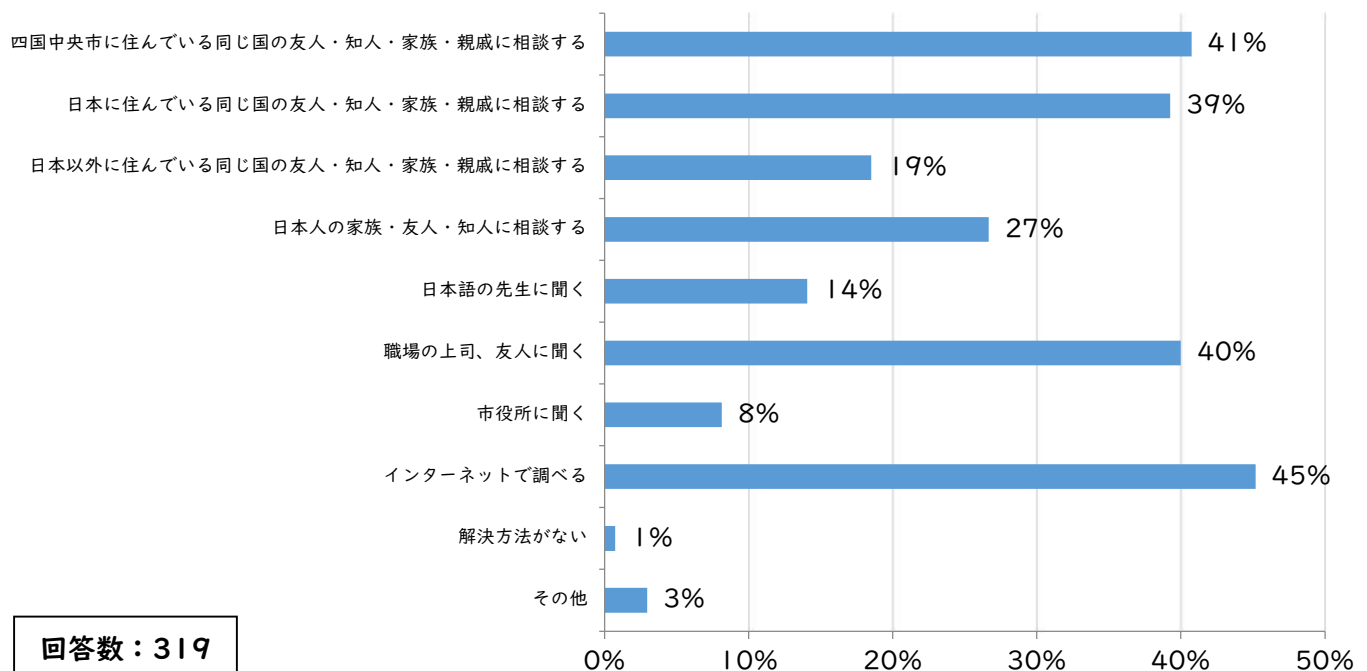
『言葉に関すること』と『物価のこと』で困っていたり、不安と考えている人が約5割と最も多い。また、仕事や収入のことでも27%が困っていたり、不安を感じている。

問 8 : あなたが普段の生活で一番困っていることを具体的に書いてください。



言葉の壁で困っているが多く、そのことにより生活情報が十分に入手できなかったり、コミュニケーションに問題が生じている。また、物価高や仕事（賃金・就職等）に困っている人もいる。

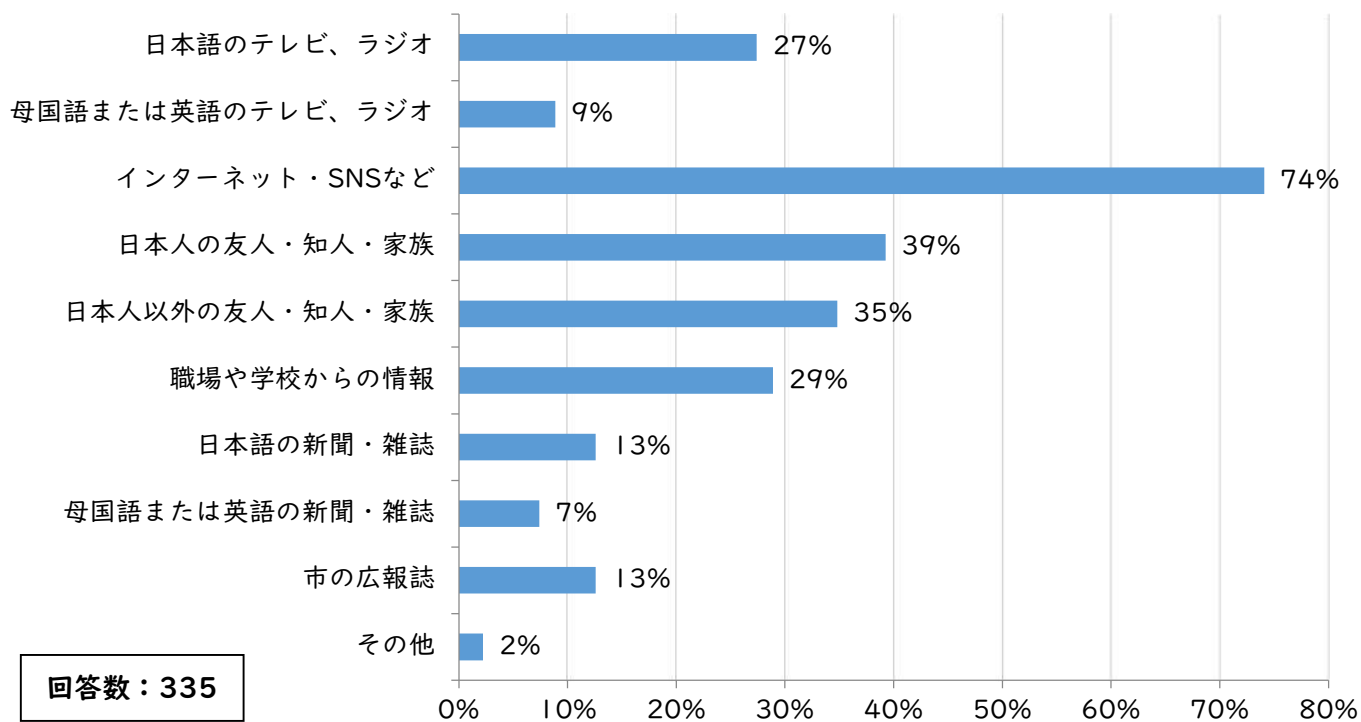
問 9 : あなたが普段の生活で困ったとき、どのように解決しますか。(いくつでも○可)



回答数：319

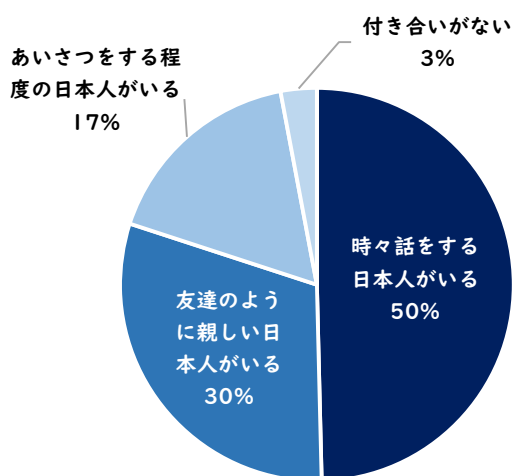
『インターネットで調べる』が45%と最も多く、次いで『四国中央市に住んでいる同じ国の友人・知人・家族・親戚に相談する』、『日本に住んでいる同じ国の友人・知人・家族・親戚に相談する』と『職場の上司、友人に聞く』がそれぞれ約40%。

問 10： あなたは生活に必要な情報を何から得ていますか。(いくつでも○可)



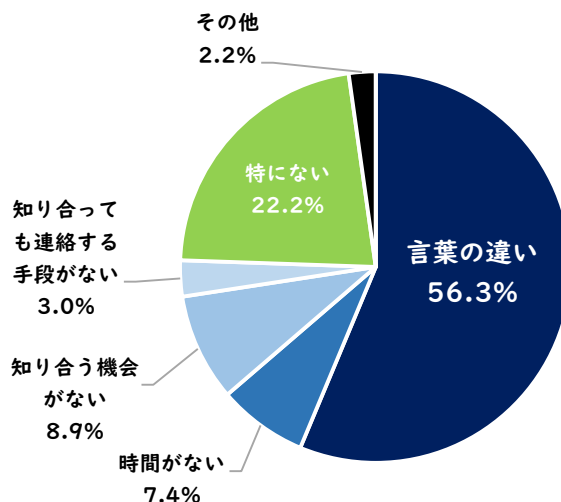
『インターネット・SNSなど』で情報を得る人が約74%と最も多い。次いで『日本人の友人・知人・家族』から情報を得ている人も39%と多く、身近なつながりが感じられる。

問 11： あなたは日本人とどの程度のお付き合いがありますか。(1つだけ○)



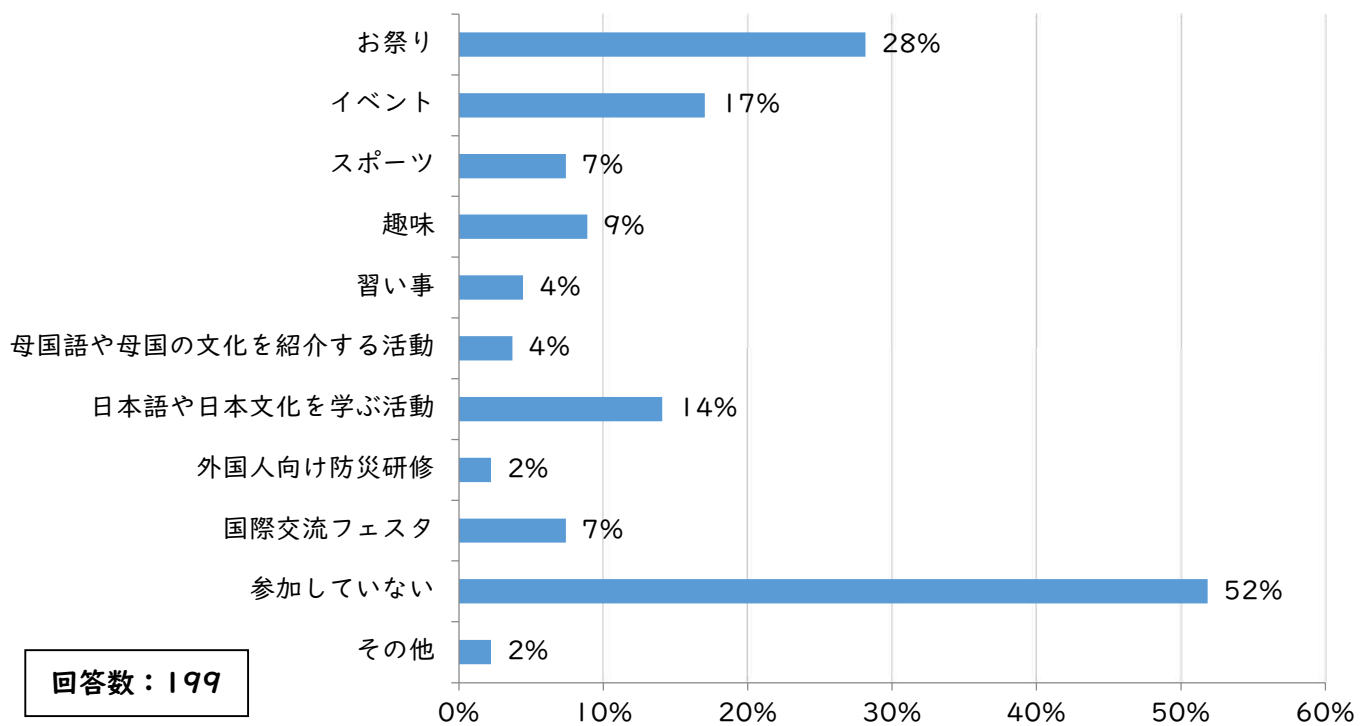
『時々話をする日本人がいる』、『友達のように親しい日本人がいる』と答えた人を合わせると8割になる。

問 12： あなたが日本人との付き合いや交流で一番障害となることはなんですか。(1つだけ○)



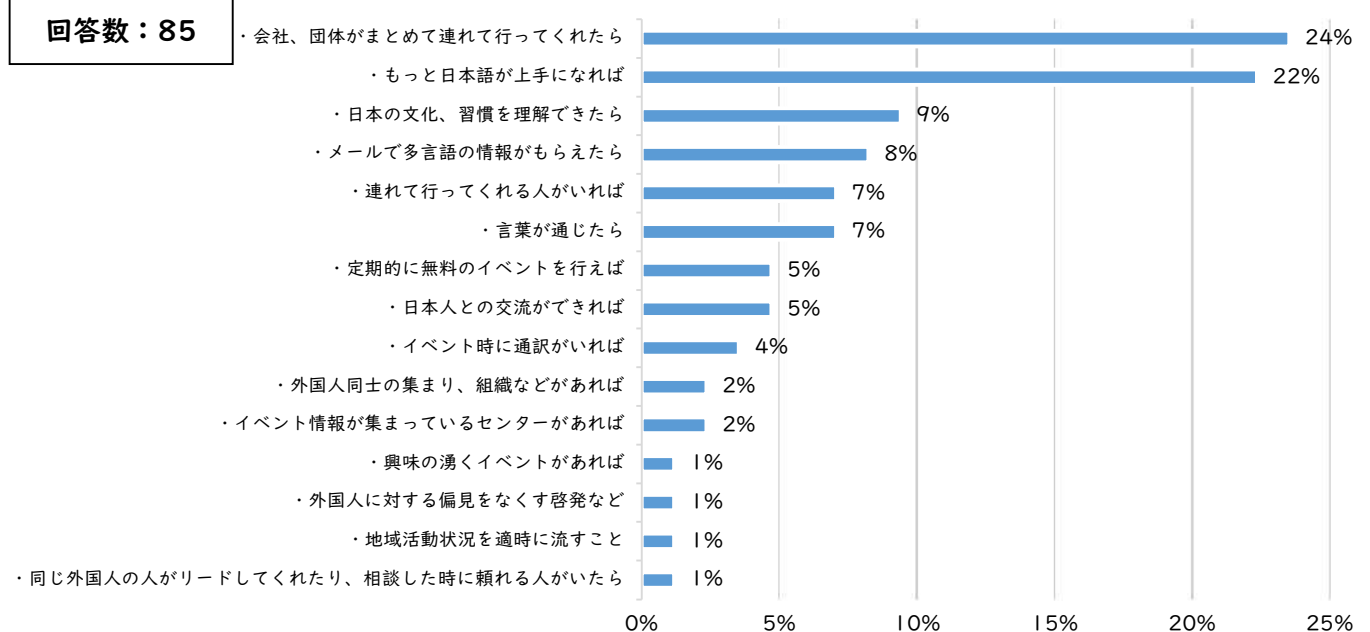
『言葉の違い』が一番障害となると答えた人が56.3%と最も多い。『特にない』と答える人も22.2%いる。

問 13： あなたが地域で参加している活動はありますか。(いくつでも○可)



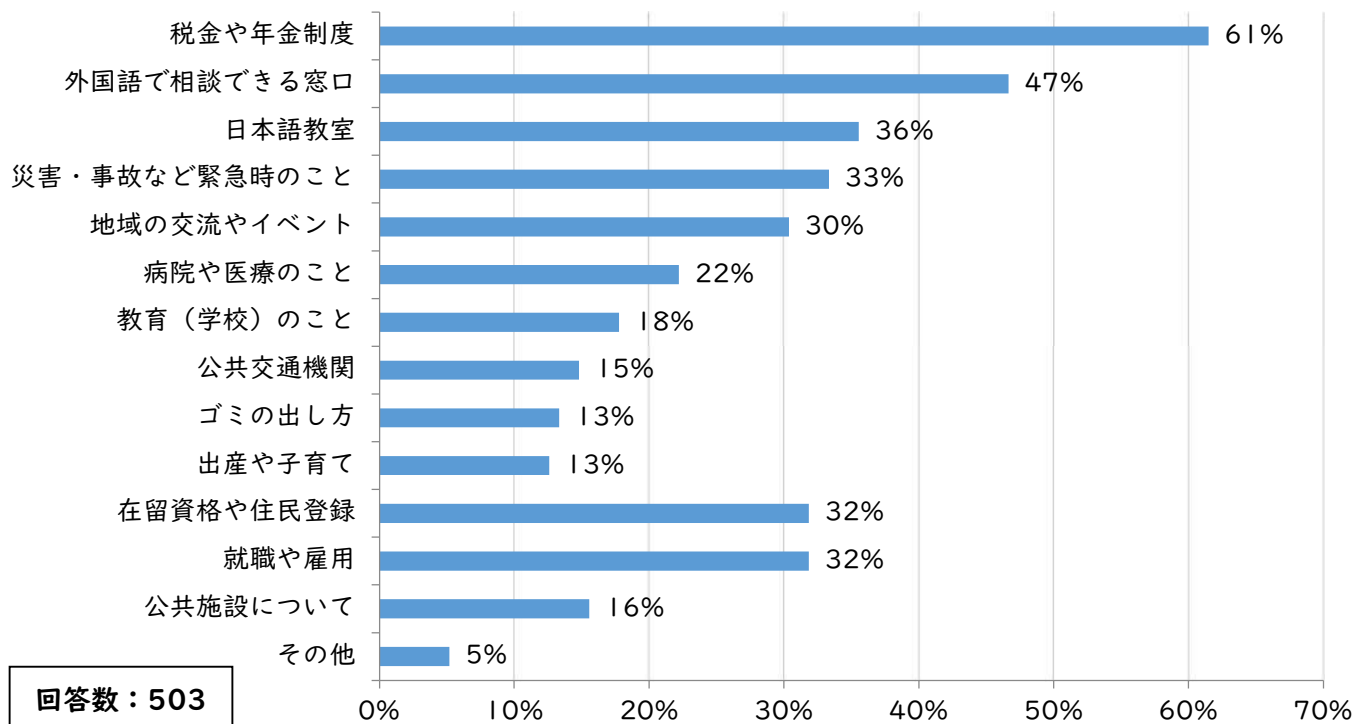
『参加していない』と答えた人が52%と最も多いが、次いで、『お祭り』は28%、『イベント』は17%と答えた人がいる。

問 14： どのようになれば地域で活動しやすくなりますか。



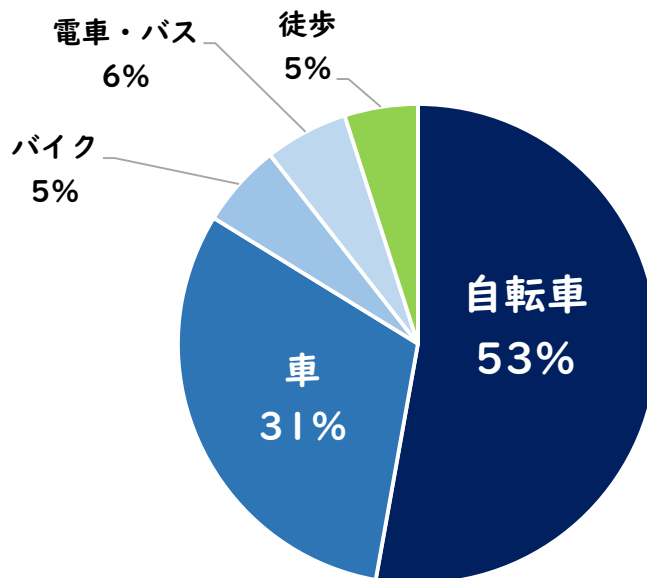
言葉が理解できず地域活動やイベント情報が伝わっていない。会場までの交通手段やイベントに誘ってくれる人がいれば参加しやすいと回答している人もいる。

問 15： あなたはどのような情報提供が必要だとおもいますか。(いくつでも○可)



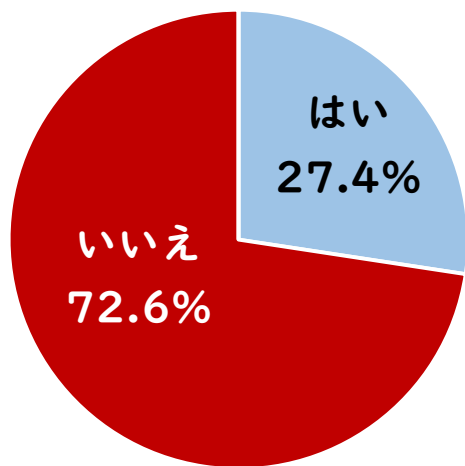
『税金や年金制度』が61%と最も多く、在留資格や相談窓口など生活の情報を求めている人が多い。

問 16： あなたの移動手段は主に何ですか。(1つだけ○)



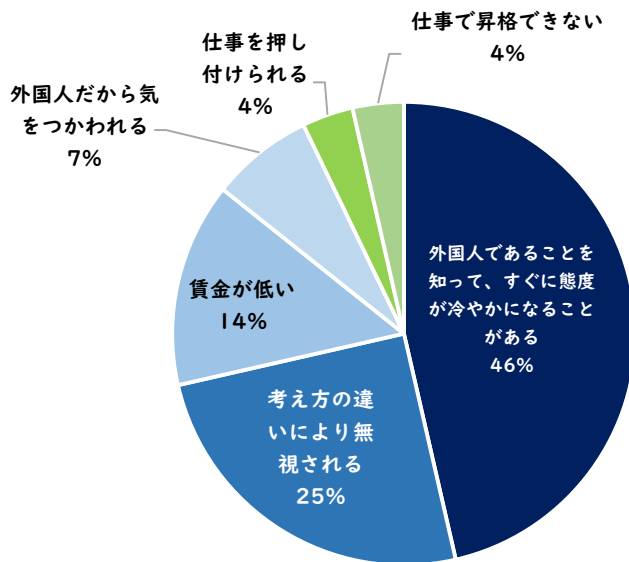
『自転車』の割合が5割を超えていて非常に高いことがわかる。

問 17: あなたは、外国人のため日本人と違った扱い（差別など）を受けたことがありますか。



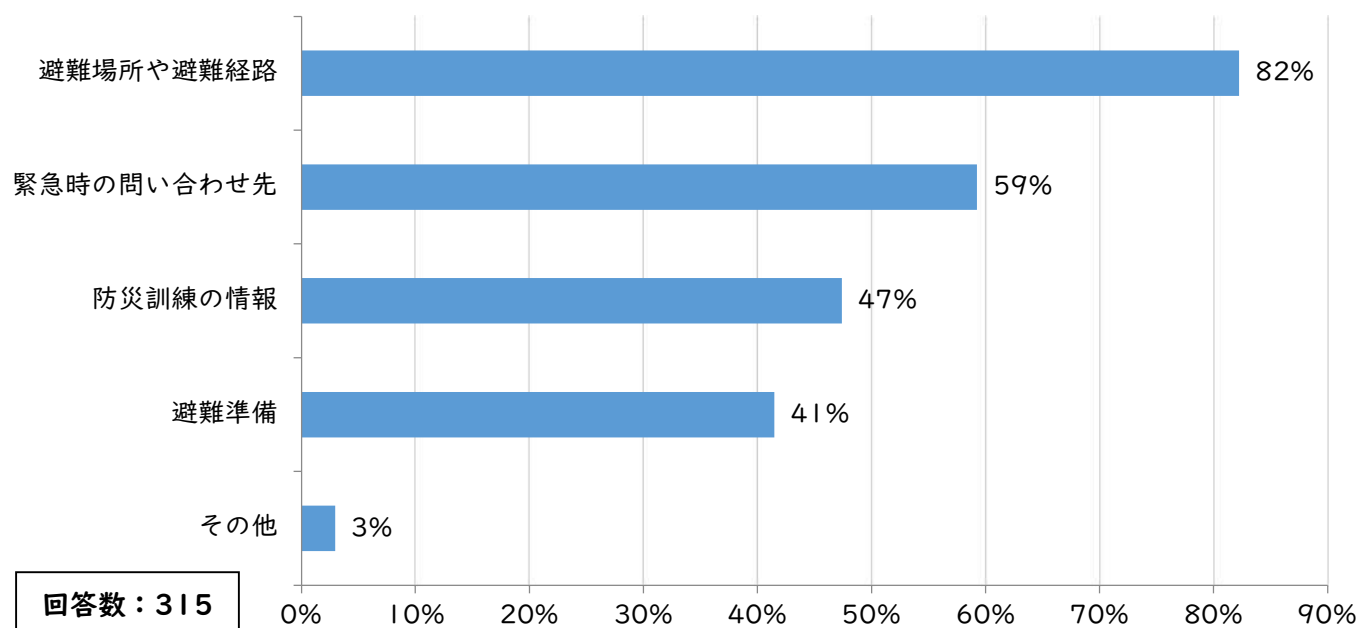
『いいえ』と答えた人が7割以上だが、『はい』と答えた人も27.4%いる。

問 18: 「はい」に○の方は具体的にどんなときに差別をうけましたか。



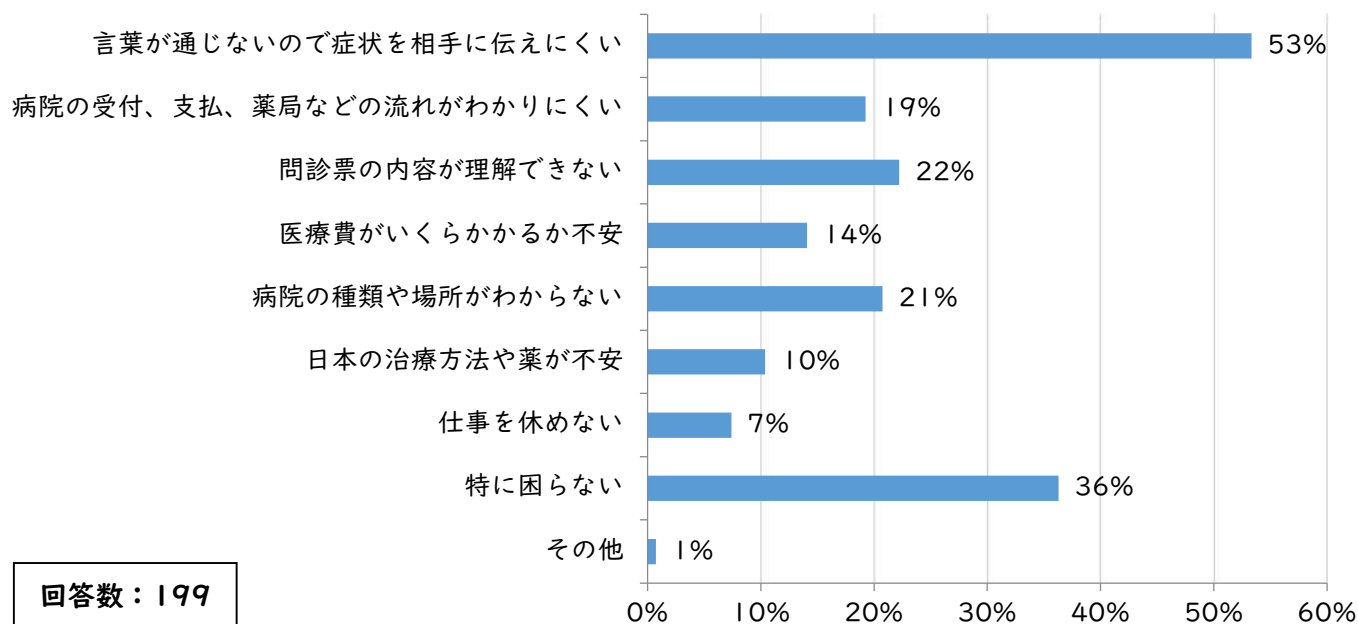
外国人というだけでいじめられたり、態度を変えられたり等偏見や差別が見受けられる

問 19: あなたが災害時（地震など）に備えるため知っておきたい情報は何ですか。（いくつでも○可）



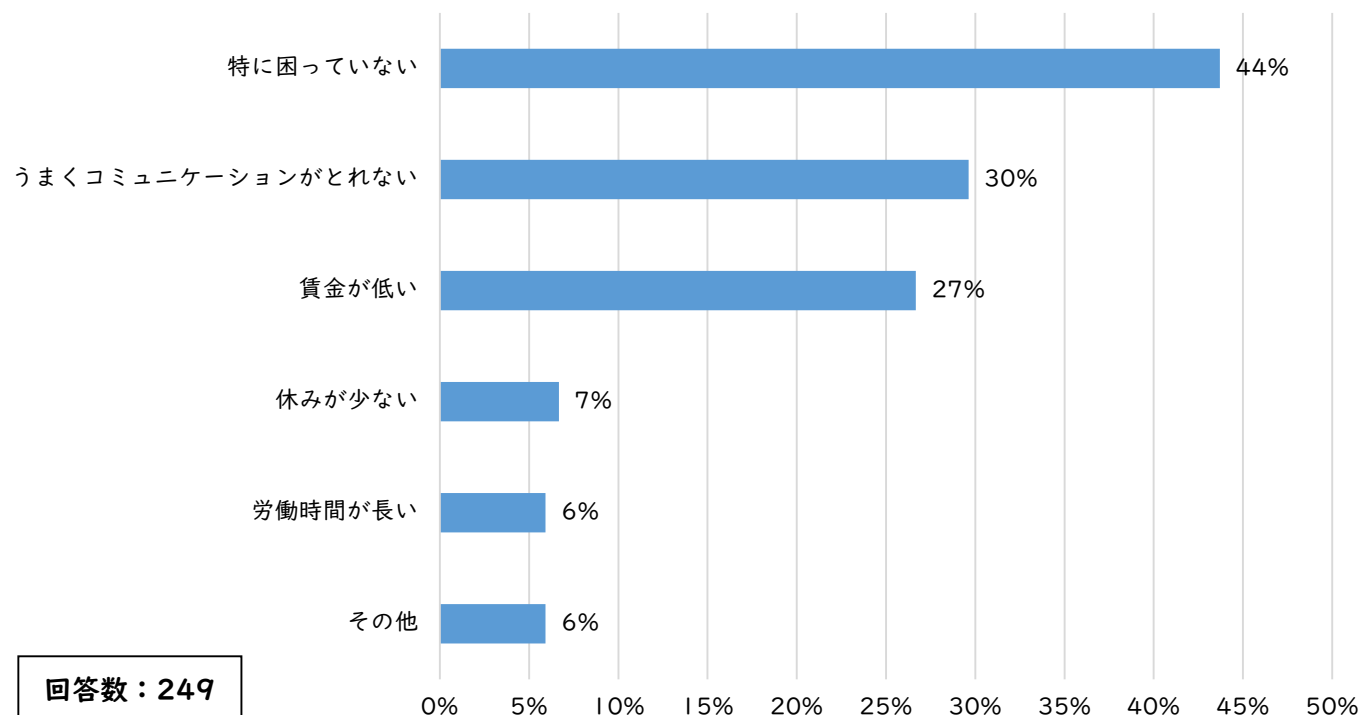
『避難場所や避難経路』と答えた人が82%と最も多く、『緊急時の問い合わせ先』も59%と行動の心配を求める人が多い。

問 20： あなたが病院や薬局で困ることは何ですか。(いくつでも○可)



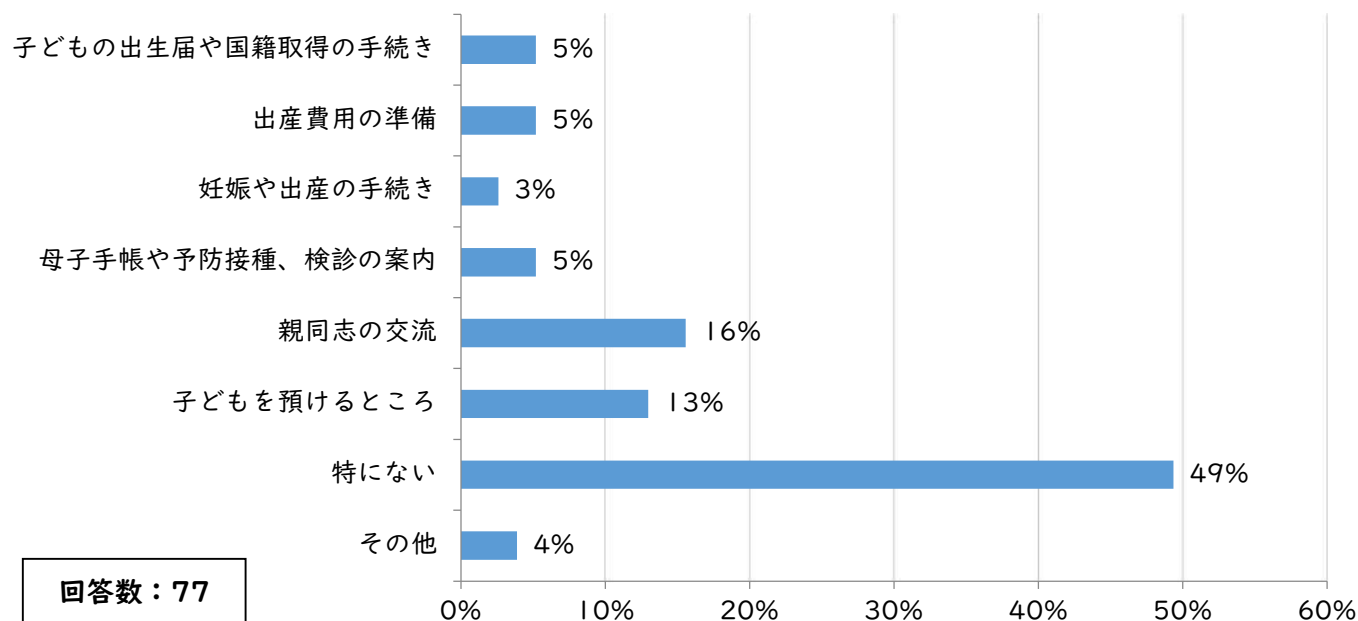
『言葉が通じないので症状を相手に伝えにくい』が53%と最も多いが、『特に困らない』と答える人も36%いる。英語を話せるスタッフがいれば助かるという声もある。

問 21： あなたが現在の職場で困っていることは何ですか。(いくつでも○可)



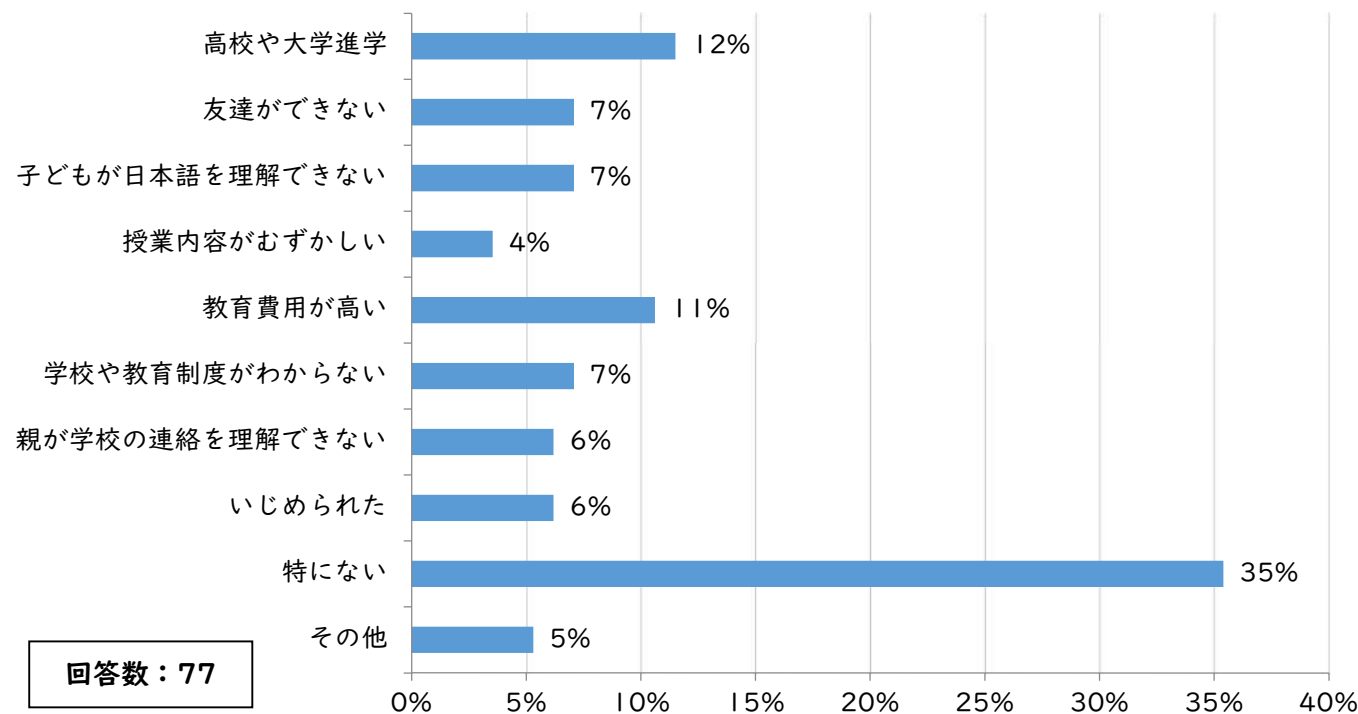
『特に困っていない』と答えた人が44%と最も多いが、『うまくコミュニケーションがとれない』と答えた人も30%いる。日本の社風に馴染めなかったり、賃金や仕事と子育ての両立に苦勞している

問 22： あなたが育児で過去に困ったことや現在困っていることは何ですか。



親同士の交流や子供を預けるところを心配している。

問 23： あなたが子どもの教育で過去に困ったことや現在心配することは何ですか。
(いくつでも○可)



高校や大学進学、教育費などを心配している人がそれぞれ約1割。制度や言葉が十分に理解できないことによる理解不足や学校でいじめや差別といった問題が発生している。

調査結果：国際交流関係者アンケート（法人含む）

1. 調査の項目

- ① 調査該当者の属性
- ② 友好都市について
- ③ 国際交流・国際協力について
- ④ 多文化共生社会について

2. 調査方法

- ① 調査地域 四国中央市全域
- ② 調査対象 国際交流事業等に参加し活動している方（法人を含む）
- ③ 調査期間 令和5年1月～3月
- ④ 調査方法 ①国際交流協会等を通じて配布、郵送等で回収 ②直接配布、回収
- ⑤ 実施主体 四国中央市

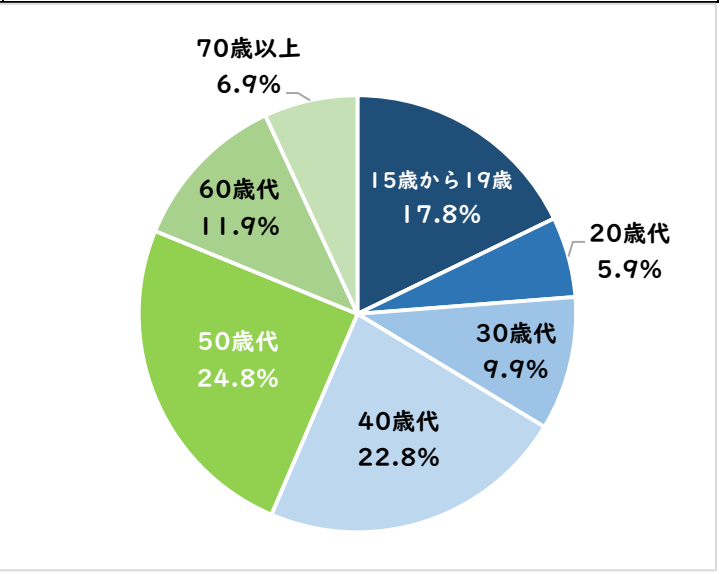
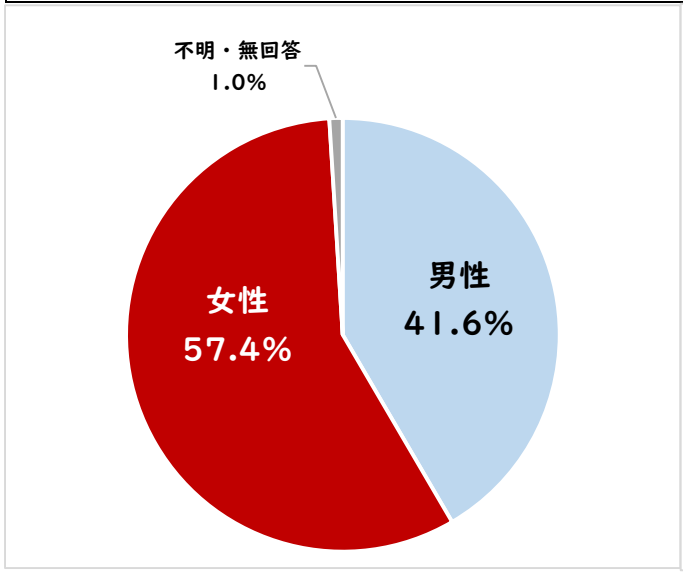
3. 回答状況

対象者数	270件
無効回答数	1件（宛先不明、帰国等による返送）
実質回答者数	101件
有効回答者数	101件
回答率	34.7%

4. 回答比率

- ① 集計は少数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100%にならない場合がある
- ② 回答比率（%）はすべて有効回答数を基数として計算
- ③ 複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超える場合がある

問 1 : 性別	問 2 : 年齢
-----------------	-----------------

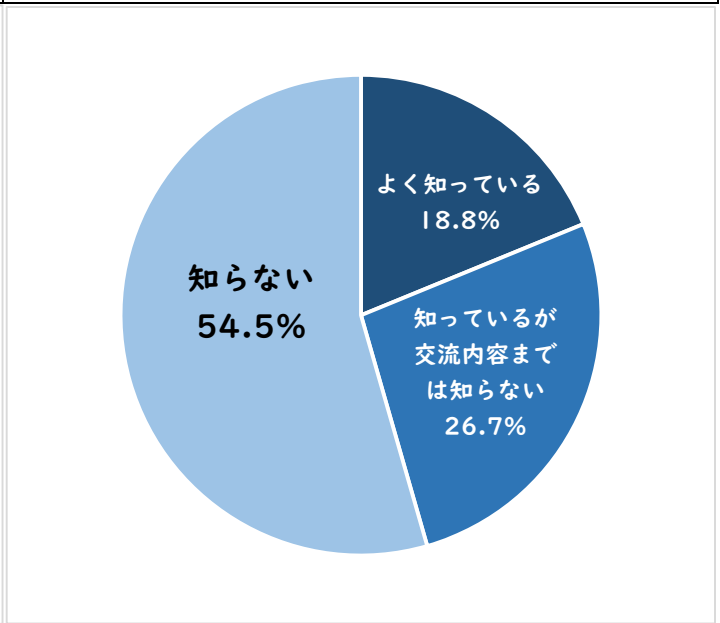
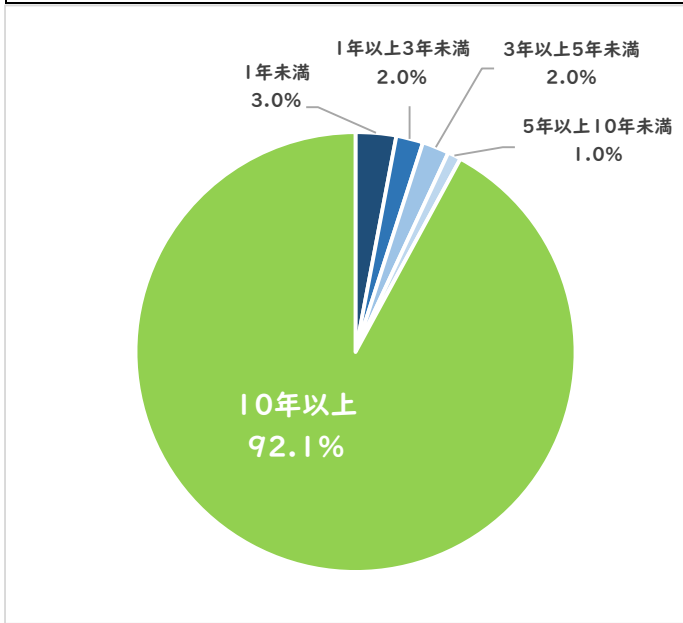


『男性』と『女性』の割合はほとんど同じである。

『20歳代』と『70歳代』が比較的少ない。

問 3 : 市内居住年数は何年ですか。

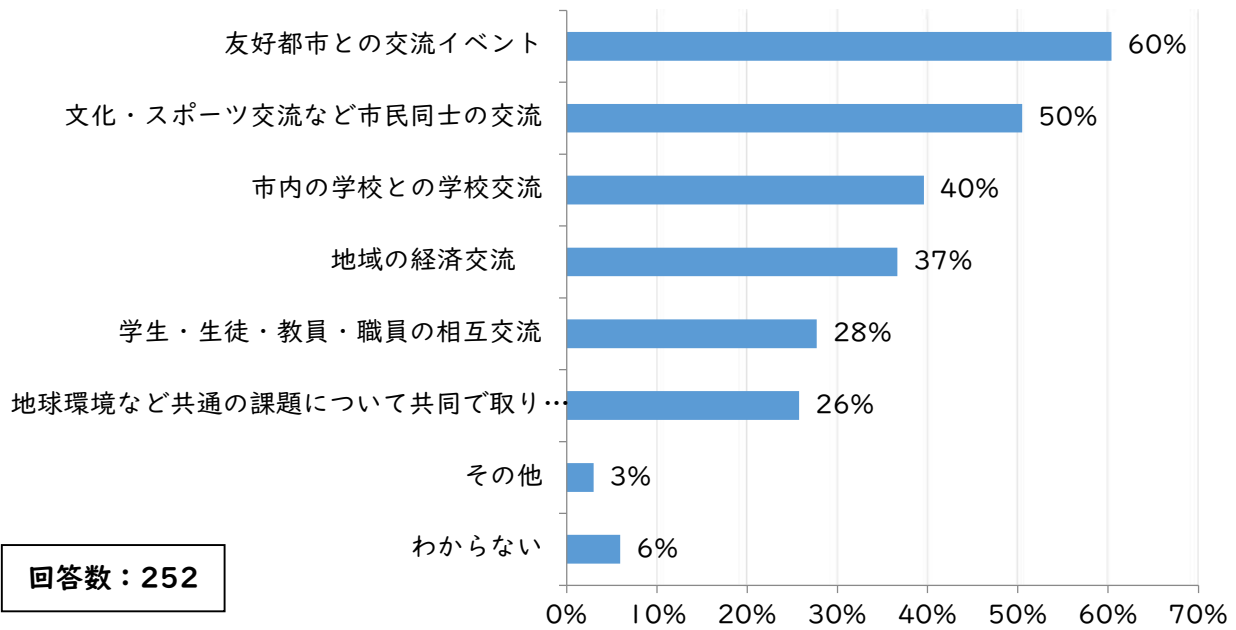
問 4 : あなたは四国中央市が中国、宣城市と友好都市を結んでいることを知っていますか。(1つだけ○)



市内居住年数が『10年以上』の人が9割以上である。

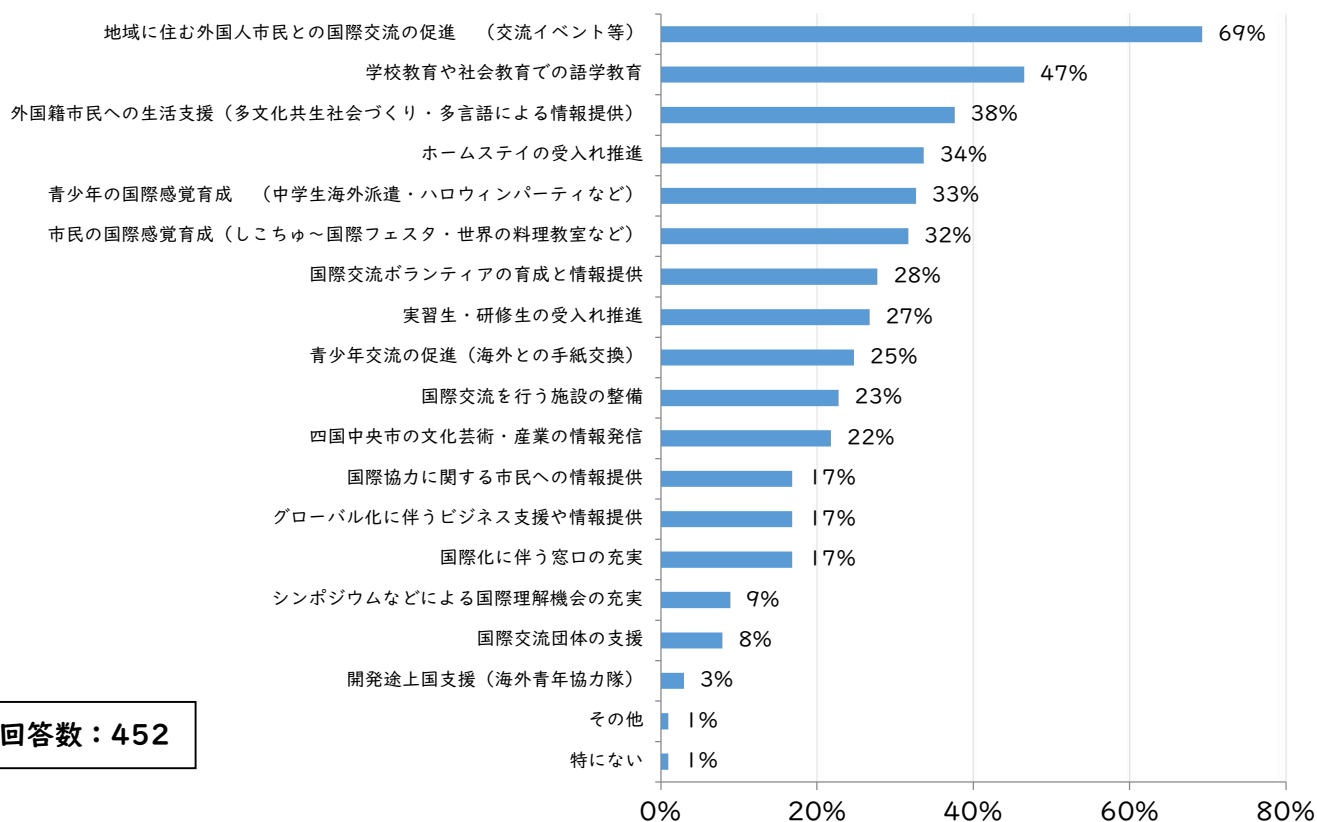
『知らない』が54.5%いるが、『知っているが交流内容までは知らない』も26.7%いる。

問5： 友好都市との交流は、今後どのような内容を重視して進めるべきだと思いますか。
(複数○可)



『友好都市との交流イベント』が60%と最も多く、次いで、『文化・スポーツ交流など市民同士の交流』が50%いる。

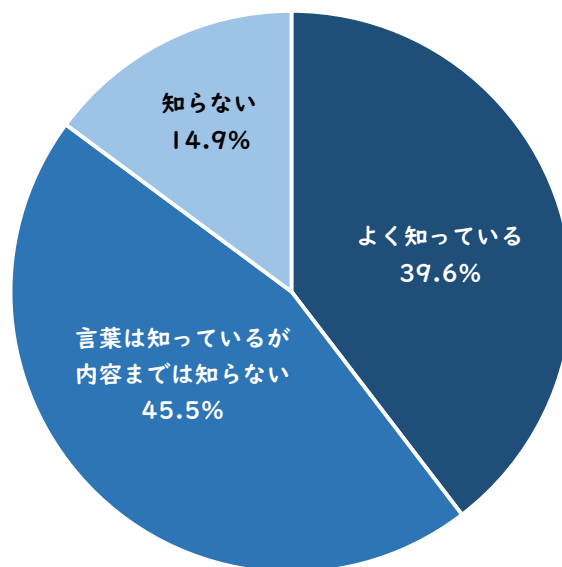
問 6： 国際交流・国際協力で今後、力を入れるべきことは何だと思えますか。
(複数○可)



回答数：452

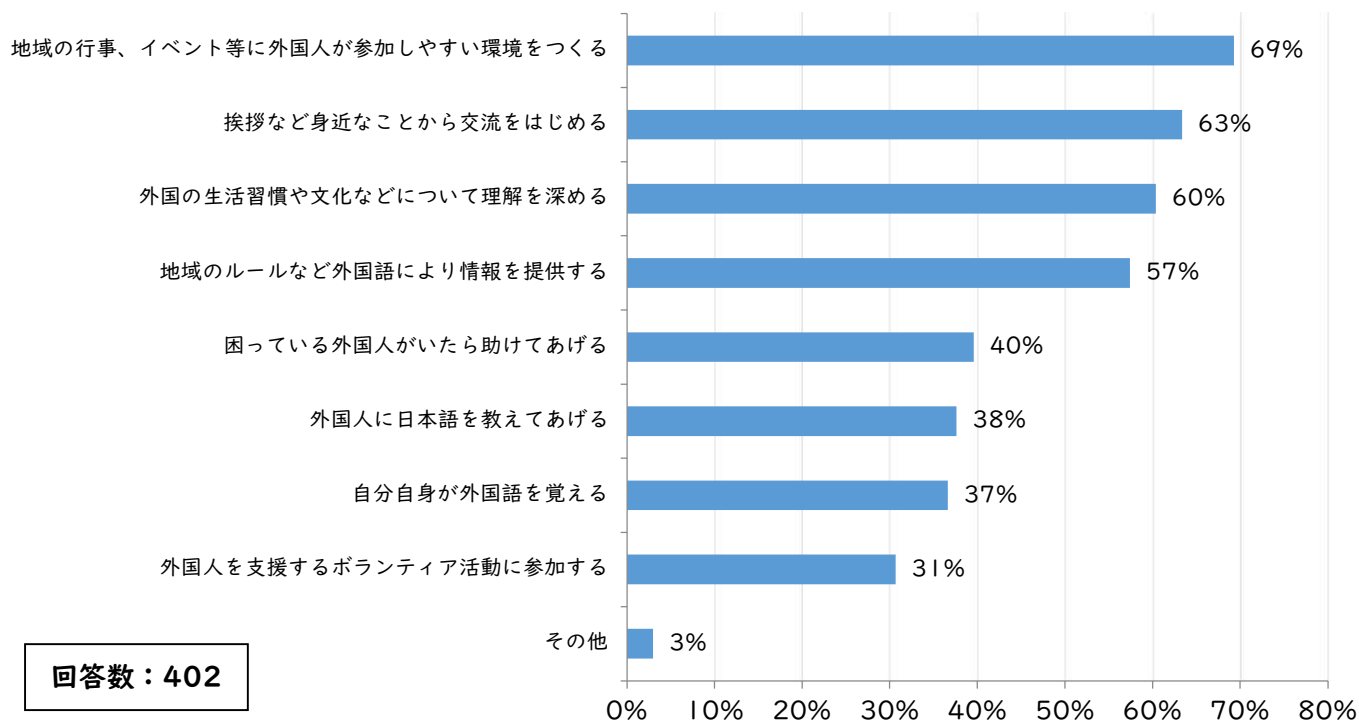
『地域に住む外国人市民との国際交流の推進』が69%と非常に多く、次いで、『学校教育や社会教育での語学教室』の47%と続く。

問 7： あなたは多文化共生を知っていましたか。(1つだけ○)



『知らない』が14.9%いるが、『言葉は知っているが内容までは知らない』も45.5%いる。

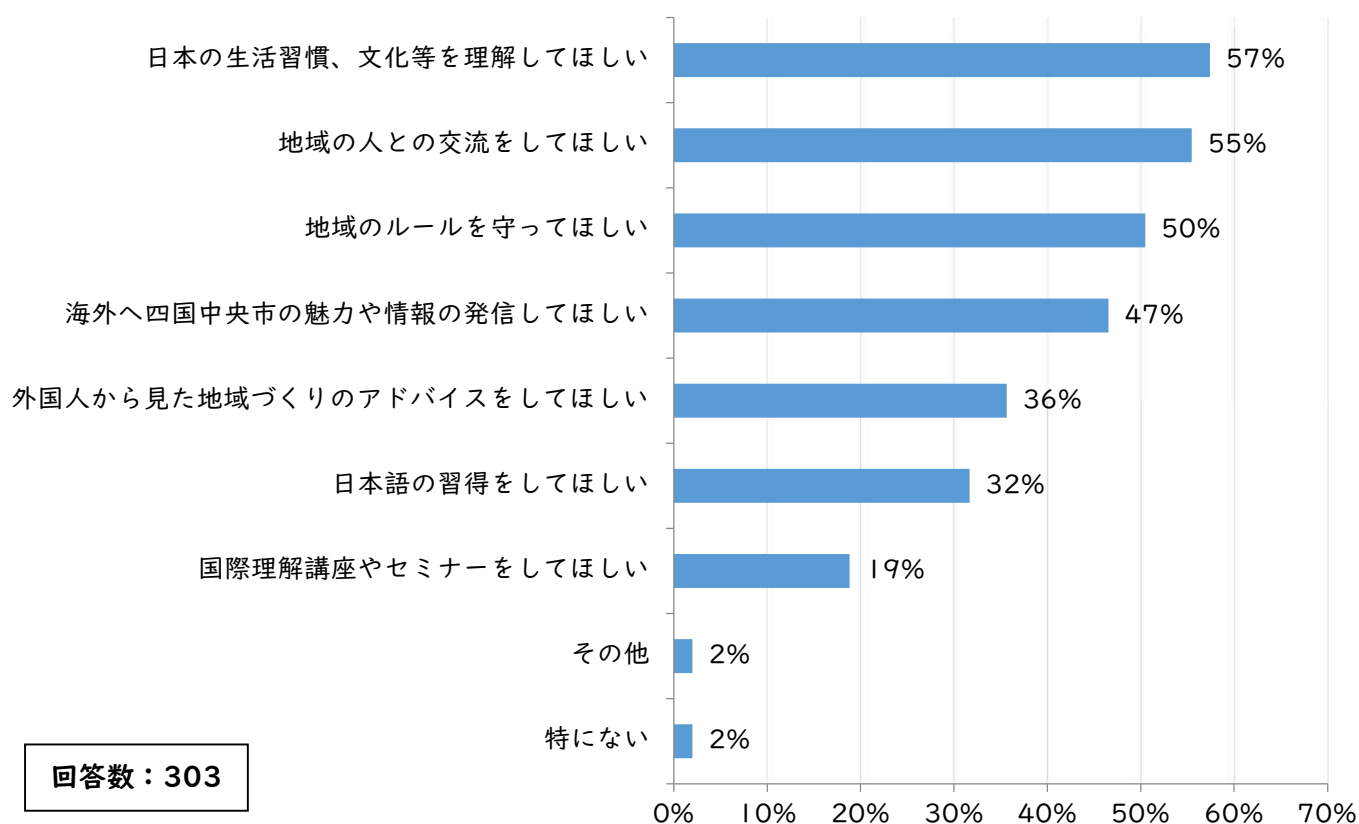
問 8： あなたは外国人市民とともに暮らしやすい地域づくりをするうえで必要と思われることは何ですか。(複数○可)



『地域の行事、イベント等に外国人が参加しやすい環境をつくる』が69%と最も多く、『挨拶など身近なことから交流をはじめ』が63%と続く。

問 9 :

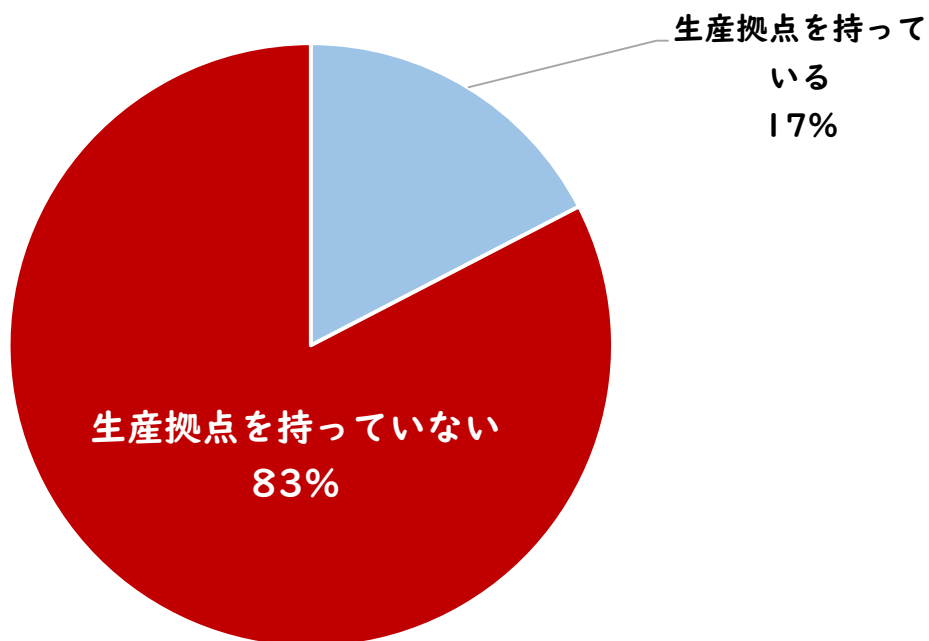
あなたは外国人市民に望むことや期待することは何ですか。(複数○可)



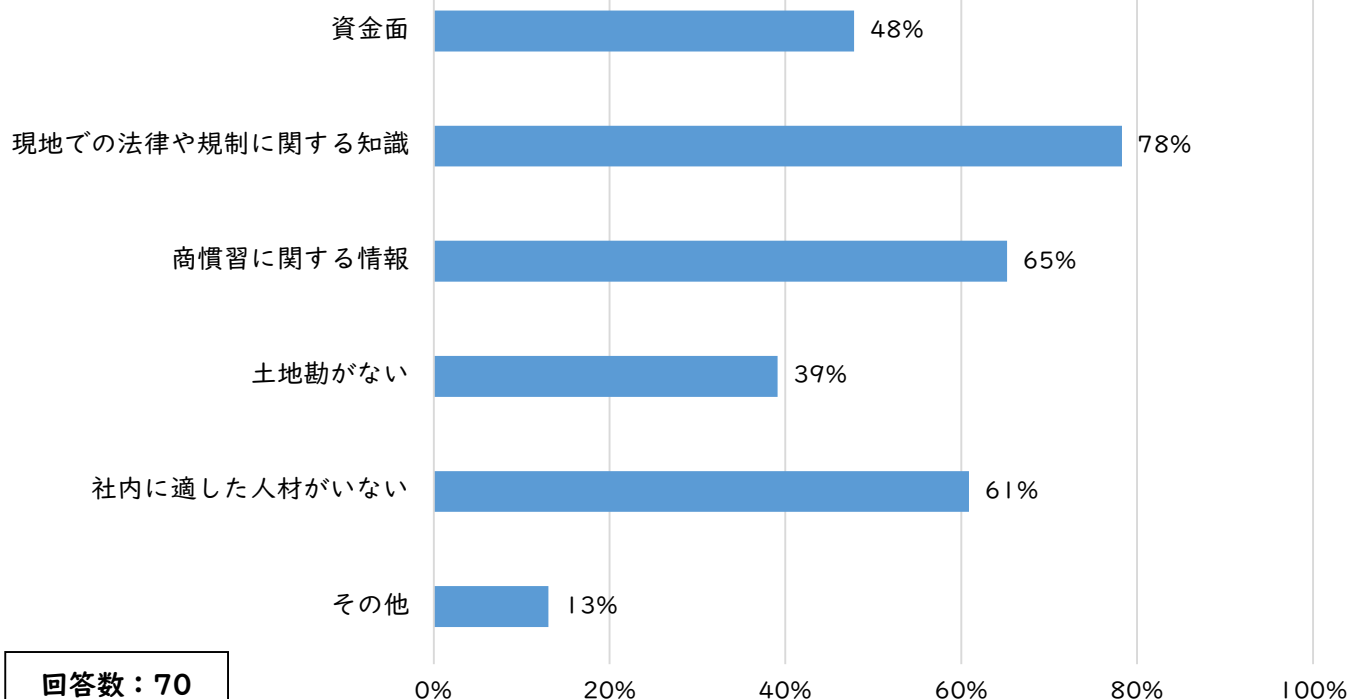
『日本の生活習慣、文化等を理解してほしい』が57%と最も多く、身近な問題が多く感じられる。

調査結果：企業アンケート

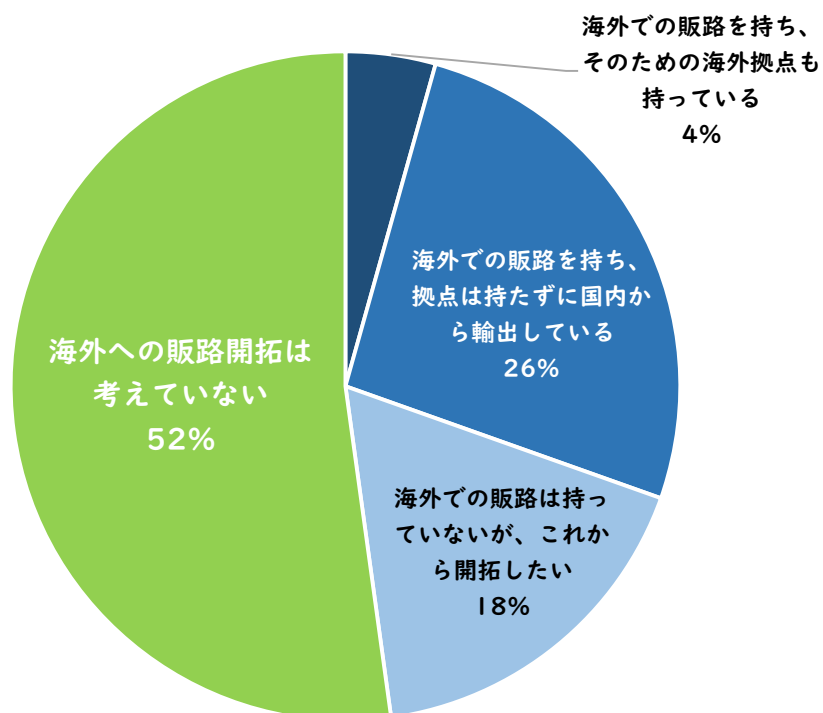
問1：海外の生産拠点について



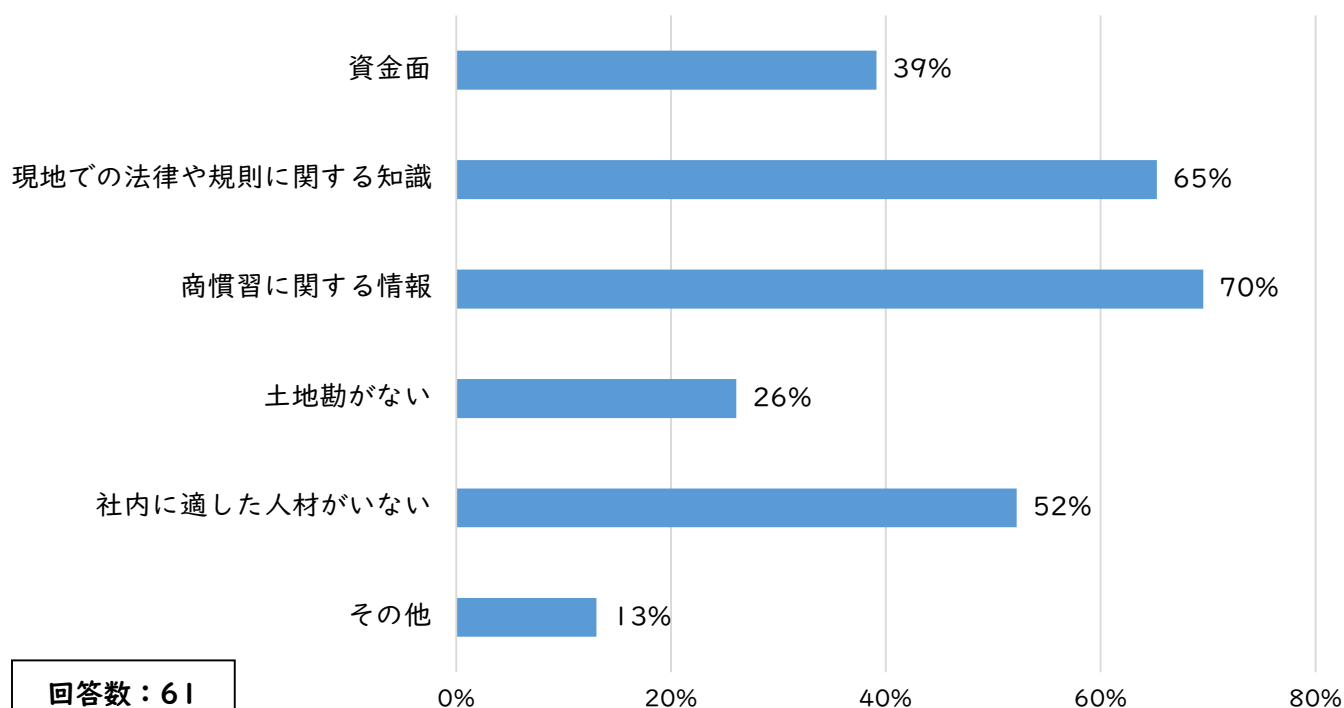
問2：海外に生産拠点を設置する際に課題となるもの（複数回答）



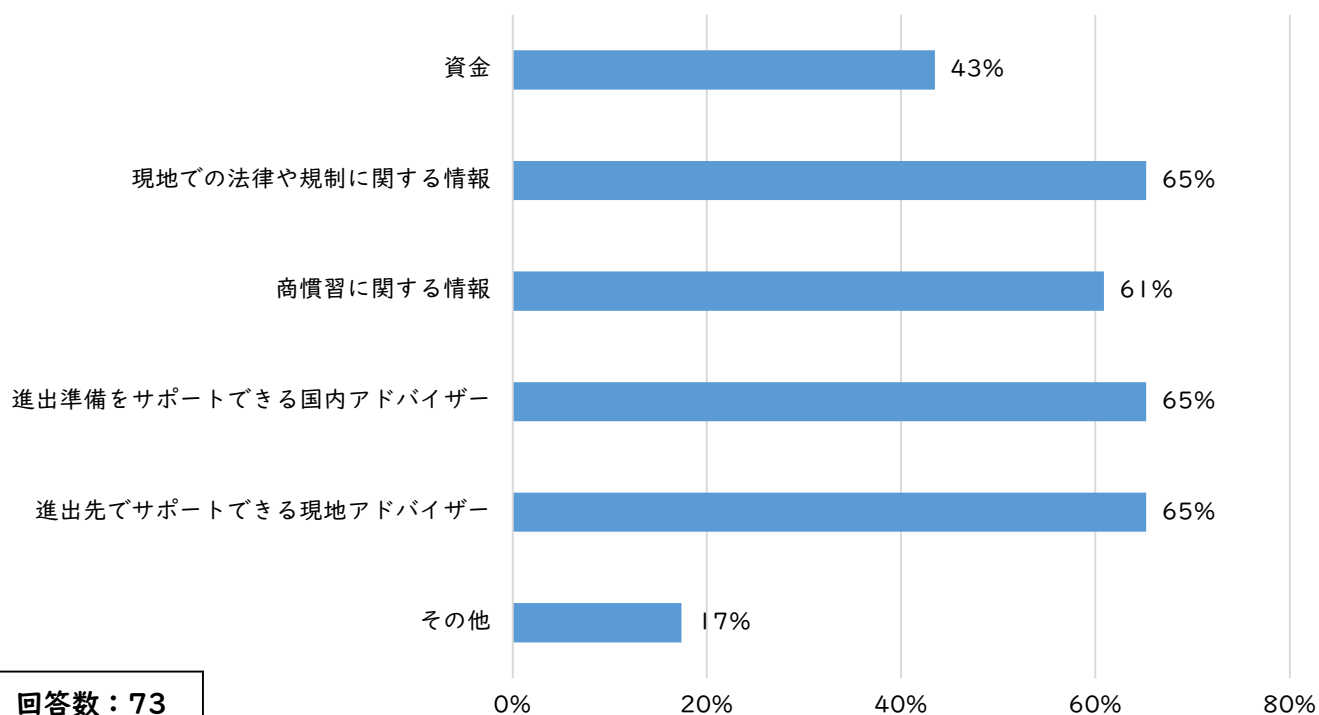
問 3： 貴社の海外での販路について



問 4： 海外に販売拠点を設置する際に課題となるもの（複数回答）



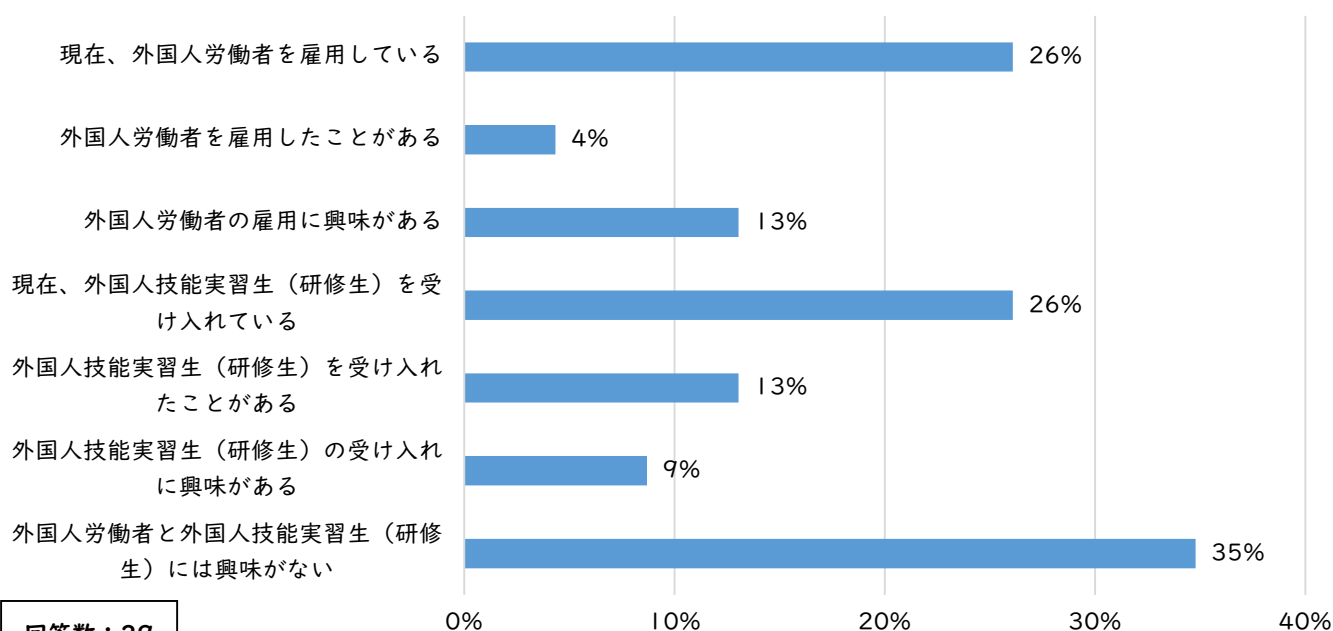
問 5： 海外進出をする際に必要な支援や助成策（複数回答）



回答数：73

その他：海外進出時の日本国内での労務処理も苦勞しましたのでそういう情報提示も進出企業はありがたいと思います

問 6： 外国人労働者等について（複数回答）



回答数：29